

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2023 年度・第 2 回

2023 年 11 月 24 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を委員として選任し、学校が実施した自己評価結果と取り組みに対する評価する。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 2023年度 第2回学校関係者評価委員会

・日時：2023年11月24日（金）17：00～18：00

・場所：読売理工医療福祉専門学校 306教室

2023年度における各学科の各評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【学校関係者評価委員】（敬称略・順不同）

- ・渡部俊一：OB（理工専校友会会長）
- ・羽場宏祐：企業等（株式会社インターナショナルクリエイティブ 取締役最高顧問）
- ・鹿毛信一：企業等（河端建設株式会社 工事部部长）
- ・小嶋 守：企業等（小嶋電工株式会社 専務取締役）
- ・伊藤大輔：企業等（医療法人社団 愛友会 伊奈病院 医療技術部 臨床工学科 係長）
- ・大庭尚子：団体等（港区在宅療養相談センター）
- ・本田章良：保護者（臨床工学科2年生） 欠席
- ・杉田明治：地域住民（文京区礪川地区町会連合会 会長） 欠席
- ・中村孝之：団体等（日本建築衛生管理教育センター） 欠席

【学校側委員】（オブザーバ参加含む）

- ・松井 敏宏：理事長
- ・中村 宏之：法人本部長
- ・中條 学：事務局長
- ・水落 清治：校長兼電気電子学科長
- ・高橋 栄樹：放送映像学科長
- ・小川 貴之：建築系学科長
- ・沢田 雄太：臨床工学系学科長
- ・曾我 辰也：介護福祉学科長
- ・増田 孝博：クロスメディア情報学科長

4. 議事

- (1) 挨拶 松井 理事長
- (2) 学校関係者評価報告書について
- (3) 報告事項ならびに取組み事項

①今年度の重点項目について

I. 昨年度に引き続き退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を10%以下とする。

Ⅱ. 就職希望者のすべてが就職できるように、就職指導の強化を行う。3月末の就職率を前年度の95%を超えるようにする。

②行事などの状況（前回の委員会以降分）

・学園祭

条件付きで飲食を可能とした。学外から約240名の来校者があり、特にトラブルもなく終了した。

・学生の表彰

[SD研究会]

木の家設計グランプリ 2023 作品タイトル「森床に住まう」

受賞内容：ビルダー賞：morinoie/モリノイエ® (Now and Then Co.,Ltd) 賞

20選：上位20作品に選出

③来年度の年間日程

・祝日や曜日ごとの授業日数の関係で、スポーツ大会や学園祭の調整をしている。

・スポーツ大会はボウリングではない内容も検討しているが、場所の問題もあるので難しい状況。

④その他

・留学生の日本語能力強化

留学生が増える状況から、更に留学生の日本語能力を引き上げながら、日本の企業での就職が出来るようにする。

・教員の研修

教育の質向上のためにも教員研修を充実させたい。

5. 配布参考資料等

資料 1 報告事項ならびに取組み事項

資料 2 重点項目に対する状況報告資料

資料 3 第1回学校関係者評価報告書

6. 報告事項

【今年度の重点項目】

I. 昨年度に引き続き退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を10%以下とする。

Ⅱ. 就職希望者の全員が就職できるように、就職指導の強化を行う。3月末の就職率は95%を超えるようにする。

【学科の取り組み状況】

<放送映像学科>

I. 今年度、当学科においての退学者は11月22日現在で2名であり、学科全学生数に対する割合は1.63%となっている。現状目標値は達成しているが、引き続き、その減少に努める。具体的には予兆が見受けられる学生に対し、担任教員による面談やカウンセリングを速やかに実施することでその要因を探り、学生一人一人が悩むことなく勉学に集中できる体制を維持する。また当該学生のみならず保護者への連絡も行い、家庭環境を把握した上で最善の策を講じる。保護者からの信頼も勝ち取ることで学科への信頼度を一層向上するよう励む。

Ⅱ. 2024年3月卒業予定者における11月22日現在の就職内定率は就職希望者76名中36名が内定、進捗率47%。昨年度の同月同日は就職希望者46名中内定者22名

であった。求人件数は現状 112 件で昨年の年間累計 106 件から微増、比較的堅調な伸びを示している。一方、半数弱の就職希望者に内定が提示されていない現状を踏まえ、学生らの能力を最大限に発揮できるよう日常的に相談や指導を強化し、卒業までに個人々の力量の底上げを図る。昨年は 1 月にかけて 20 名が内定したが、今年度は 40 名が 1 月中に内定できるよう学科の就職担当教員を中心に学科全体として各企業にアプローチする。目標としては 100%を目指す。

<電気電子学科>

- I.10 月末時点、退学率 5.6%（退学者 1 名、除籍 1 名）となっている。1 年生は、出席率 2/3 を切る学生がいるので、早めの対応を心掛け、随時面談等を行っている。全体的に後期に入ってから休みが多くなっている学生がいるため、面談等による徹底指導を行う。保護者との連絡もとるようにする。
- II.10 月末時点、就職率 69.2%(就職希望者 13 名中 9 名内定)となっている。未決定の 4 名は、縁故での就職を予定している 2 名、他分野への就職のため就職支援が難しい 2 名のみ。年度末までに就職は決まると思うが、アドバイスができれば積極的に行い、早期の全員内定を目指している。

<建築学科>

- I.10 月末時点、退学率 0%（退学者 0 名）出席不良、課題提出不良者については、適宜担任を中心に連絡、面談を行っている。出席率が 80%を切る学生が数名いるため、進級・卒業に向けて担任を中心にフォローしていく。
- II.10 月末時点、63.6%（就職希望者 11 名中 7 名内定）。残り 4 名は、インターン・面接など順次活動中。施工コースでは授業の一環としてインターンを課している。

<建築科>

- I.10 月末時点、退学率 16.7%（退学 6 名、除籍 6 名）すべて 1 年生。仕事との両立が難しく登校が困難になって退学を選択する学生が多い。出席不良、課題提出不良者については、適宜担任を中心に連絡、面談を行っている。仕事などで一時的に登校が難しくなった学生については、追再試などのフォローと共に、休学を勧めるなど柔軟な対応を行っている。
- II.10 月末時点、0%（就職希望者 9 名中）就職（転職）を希望している学生であっても、ほとんどが日中仕事をしている社会人現在の仕事と比較検討した上で、最終的に継続勤務を選択する学生が多い。就職（転職）希望の学生については、適宜就職担当より求人を案内すると共に、担任が個別に相談に乗る体制を整えている。

<臨床工学科>

- I.10 月末時点 退学率：7.6%（退学 6 名、除籍 0 名（休学 2 名）
（1 年生：2 名（休学 1 名）、2 年生：4 名（休学 1 名）、3 年生：0 名）
- II.工学科 3 年生 10 月末時点 就職内定率：29.6%（就職内定者：8 名/27 名）
（昨年度同時期 内定率：18.2%（4 名/22 名）

<臨床工学専攻科>

- I.10 月末時点 退学率：0%（除籍退学 0 名）となっている。欠席や遅刻した学生に対して担任が電話やメールで連絡を取り、理由などを把握した上で、指導を行っている。内容によっては保護者に来校していただき、話し合いを実施することもある。成績不良者に対しては面談を実施し、授業時間外を利用して補講などを行っている。

近年の学生は成績不良以外にもメンタルケアが必要な学生が散見されるため、そのような学生に対しても都度面談を実施するようにしている。

- II.専攻科2年生 10月末時点 就職内定率：22.2%、就職内定者：2名/9名（昨年度同時期 内定率：33.3%（4名/12名））となっている。就職活動については、できる限り早いタイミングで動く様、学生には指導を行っている。国家試験合格が難しいと予想される学生については、勉強を優先させるケースもある。（国家試験を合格しない限り、内定をもらっていたとしても病院で勤務することができないため。）就職担当教員・担任を中心に受験病院の相談や履歴書添削、模擬面接などを実施し、早期内定を獲得できるよう学科を上げてフォローアップに努めている。企業・病院毎の就職説明会もできる限り多く実施出来る様、調整している。（善仁会グループ、上尾中央医科グループ、フィリップスなど）

<介護福祉学科>

- I.成績不良の学生に対しては、補講等で引き上げに努めている。学業等について課題のある学生に対しては、保護者と面談等の上、情報共有を図ることで状況の改善に努めている。疾患や障害のある学生への対応については、スクールカウンセラーに相談し、専門家の意見を参考に指導に当たっている。
- II.施設見学会や説明会等の参加状況を把握するため、「就職活動状況表」の提出を促している。進路が決まっていない学生には、適宜声掛けを行い、期間を定めて報告するよう促している。面接に不安のある学生には、模擬面接指導を実施している。面接で不合格の学生や就労に不安のある学生には、より適性に合った情報提供を行い、時に学科長が事業所との間に入り、間を取り持つようにしている。

7. 委員からの評価と意見（評価点：5点満点）

評価に関して段階（5＝申し分ない・4＝十分である・3＝標準的・2＝努力を要する・1＝不十分である）

○教育活動（3.83）

- ・特にはありませんが、留学生の教育は、一つあるとすれば、言葉によりコミュニケーション大切に行っていくことが大切と思います。
- ・学園祭などの学校行事も行うことができ、学校自体が活発になって来たと思う。それにより学生の学習意欲やコミュニケーション能力も向上するため、勉強以外の活動もしっかり行えることはとてもいいことだと思う。またスクールカウンセラーがいる事もとてもいいことであり、学生だけでなく、教職員も学生との関わり方などの相談役として活用するのもいいと思う。
- ・コロナ禍が落ち着き、通常の教育活動が可能になってきている。完全にコロナ禍前には戻らないとは思いますが、学業が充実しさらに学生生活が楽しいものになるような更なる工夫が必要かもしれない。
- ・また、外国人の学生の増加も見込まれます。今まで通り日本の生活様式や学業に早くなじめるような援助も併せて実施できるとよいと思います。
- ・対面授業がスタートし飲食を含め学生間のコミュニティも期待される。学園祭、地域のイベントへの参加協力。学園祭、オープンキャンパス等によるPR活動をさらに進めてほしい。（人間力のアップ）
- ・対面式になって顔を伺いながらの授業は良いものと思います。
- ・欠席の多い学生のフォロー・スクールカウンセラーの配置等良くされていると思います。

○重点項目①除籍退学率 10%以下目標の評価 (3.83)

- ・現時点で、全学科の除籍退学率が 4.75%ということなので、日頃の教職員の努力が伺えて評価出来る。除籍退学は1年生がほとんどを占めていることから、1年生に関しては学力および精神ケアが大事になると思う。教職員には大変だが面談やメールのやり取りで、学力的な問題か精神的な問題かを把握し、個別にフォローしていく体制作りが大事であると思う。
- ・各学科で除籍退学率のばらつきがあります。それぞれの学科の特徴がありますので、少ない教員でのフォローも限界があるのではないのでしょうか。
- ・教員へのフォロー体制もなくては学生もつかれている。教員もつかれている状況ではよい成果は望めないのではないかと思います。
- ・説明のあったように、精神的な問題を抱えている（心が疲れている）学生については、第三者のカウンセラーの力を借りるのも大切かとも思います。
- ・新卒の学生については、専門学校なので、合わないと思う学生も一定数いると思います。
- ・入学時のマッチングも大切ではないかと思います（特に基礎学力）
- ・授業以外に学生間及び教師とのコミュニケーションを推進するために部活動、サークル等の新設が有効です。但し若干の投資が必要となります。
- ・留学生は日本語能力の向上が第一と思います。
- ・先生方の努力に敬意を払います。引続き学生個々のフォローをお願いします。
- ・学生全体で参加できるイベントの開催等で学生間のコミュニケーションをはかってもらいたい。

○重点項目②就職率向上の評価 (3.83)

- ・カウンセリングの時間を増やすことを検討してみてもどうでしょうか？やはり、生徒さんとのコミュニケーションが第一とは思いますが。
- ・就職率に関しては各学科とも内定率が高く、学校の努力の成果であり評価出来る。臨床工学科に関しては、病院側としても早い段階で動く学生が質の高い学生というイメージがあることから、8月くらいには活動を始めて行くのが就職率アップにつながると思う。
- ・企業へのアプローチは引く続き実施する。（求人確保）
- ・在籍学生に対して、介護福祉学科が実施しているように個別の弱点を踏まえた対策等が良い結果に結びつくかかもしれない。
- ・資格取得しないと就職に結びつかない学科もあるため、資格対策を十分行い合格率 100%を目指せるよう学内での対策が必要。
- ・企業からの突発的な採用に関するリクエストに、さらに迅速に対応できると助かります。
- ・採用に当たり、まず現場を知ってもらうためにインターシップ制度などの充実、企業説明会等が効果的です。
- ・現在留学生を採用していますが、日本語での会話が今一步で職人たちも多少困っている現況です。すぐには厳しいでしょうがもう少し会話が出来ると尚採用しやすくなります。

○全体の評価 (4.17)

- ・18歳人口が減っていく中で、大学との競争もあり、入学者の確保は今後益々大変になっていく。専門学校の強みは、学力が弱いところからでも面倒をしっかりとみてくれる事、専門性が高く、即戦力で働けそうところ、また卒業や資格取得ま

でにかかる費用が安く済む事であると思う。映像学科で作成した動画では、この専門性が高くアピール出来たととてもいいと思った。面倒をしっかりとみってくれる事、資格取得や卒業までの費用の利点をアピール出来る動画作成をすることで、親も含めたアピールが出来ると思う。

- ・留学生の増加は学科によっては好材料と成りえる。しかしながら臨床工学科に関しては病院への就職が厳しいと思うため難しいと思う。
- ・専門学校だからこそ、学業に関しては即戦力を目指すこと、実学の充実を図っていくこと。大学との差別化を具体化したカリキュラム作りも大切かと思えます。
- ・全体的には、それぞれの学科とも目標に向かって取り組まれている報告をされていました。
- ・安定した学校経営のために、入学制の確保が急務かと思いました。
- ・入学者数が少ない学科のPRプロモーションの展開。
- ・留学生頼みからの脱却、日本人を多く募集し採用してもらいたいです。そちらの方が企業としても採用しやすい。育てるにも時間が短くてすみます。留学生は性格は良く真面目です。

8. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

高評価をいただいた項目もあるが、ご指摘を受けた事項については、すぐには無理でも今後のために確認しておきたい。

以上